



ISSN 0385-0838

第 181 号

発行所

亜細亜大学アジア研究所
東京都武蔵野市境5-8
電話 0422(54)3111
郵便番号 180-8629

変わるASEANと、日本の関係

大泉 啓一郎

二〇二〇年十一月七日から毎週土曜日五回連続して、『変わるASEANと、日本の関係』と題した公開講座を、オンラインを使って実施した。

近年、緊密化する日本とASEAN諸国との関係の「今」を知ってもらう、それが本講座の狙いである。

たとえば、経済的な結びつきを、日本の貿易額からみてみよう。ASEAN10カ国をひとまとめにしてみれば、輸出では、アメリカ、中国に次ぐ第三位であり、そのシェアは一五・一%と高い。輸入も同様で、中国に次いで第二位、シェアは一五・〇%である。日本の貿易問題といえ、アメリカや中国がすぐに話題に上るが、それと同様の地位をASEAN諸国は占めていることを軽視してはならない。

人の交流もさかんだ。日本国内における外国

人労働者の数は、第一位が中国(三十九万人)であるが、第二位がベトナム(三二万人)、第三位がフィリピン(一六万人)である。ここでも、ASEAN10カ国をひとまとめにすると、総数は五二万人に達し、日本で働く外国人の三六%を占める。

日本企業は、一九八五年のプラザ合意以降の円高を背景にASEAN諸国への進出を本格化させた。二〇一九年末の日本の製造業のASEAN向け投資累計額は一三兆円と、中国向けの九兆円を大幅に上回る。その日系企業で働く従業員の数は二〇〇万人にも及ぶ。成長とともにASEANの大都市は、先進国と変わらない景観を持ち、購買力も高まった。これに対応するかのように、二〇一〇年以降は、小売りや外食、金融など非製造業の進出が加速した。いまやASEAN諸国に居住する邦人数は二一万人

目次

- 変わるASEANと、日本の関係 …… 大泉啓一郎 …… (1)
- 問題山積みの「ほほえみの国」タイ …… 末廣 昭 …… (2)
- コロナ禍の中のインドネシア …… 増原 綾子 …… (5)
- 変わっているドゥテルテ、変わるかフィリピン …… 鈴木有理佳 …… (7)
- 躍動するASEAN企業―多国籍化に拍車 …… 牛山隆一 …… (9)
- コロナ後のASEANを見据えて …… 大泉啓一郎 …… (11)
- 次の一手 …… 遊川 和郎 …… (13)

と、中国の一二万人を大きく上回る。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、人の交流は途絶えているが、日本とASEANとの間のモノ、資金、情報の流れはとどまることなく、むしろ拡大している。

本講座では、学習院大学国際社会科学部教授末廣昭先生、本学国際関係学部教授増原綾子先生、アジア経済研究所主任研究員鈴木有理佳先生、日本経済研究センター主任研究員牛山隆一先生、本学アジア研究所教授大泉啓一郎(筆者)がASEAN諸国の「今」をテーマに、リレーで講演した。

本号は、講師のみなさんに改めて執筆をお願いした特集号である。

(おおいずみ けいいちろう)

アジア研究所教授)